

南ア月報

(2011 年 7 月)

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●労働組合の大規模スト発生

昨年度COSATUのバビ事務局長が警告していた労働組合ストライキ、“The mother of all strikes”が、4 日始まった。ストは金属業界労組の Numsa (National Union of Metal Workers of SA) から始まり、科学、エネルギー、製紙、印刷、木材業界労組 Ceppwau (Chemical, Energy, Paper, Printing, Wood and Allied Workers Union)、鉱山業界系労組 Num (National Union of Metal Workers)、白人系労組 Solidarityなどを巻き込んだ大規模なものに発展、各労組は雇用者に対し二桁の賃上げを要求した。ハウテン州、クワズール・ナタール州などでは石油業界に関わる労働者のストにより、ガソリンのないガソリンスタンドが現れ始め、消費者の不安を煽った。ストは1～2週間ほどで収束したが、7月後半から行われた Num のストは8月に入ってから継続された(8月5日収束)。

●マドンセラ護民官に逮捕状？

6日、マドンセラ護民官(パブリック・プロテクター)に対し、逮捕状発出の恐れがあるという憶測がメディアを賑わせた。報道によれば、「マ」護民官が南ア司法改革委員会の理事を務めていた時代、「マ」護民官の所有会社と法改革委員会の間で不正取引があったことが判明し、逮捕状が出るとしていた。「マ」護民官にとっても本件は寝耳に水の話で、身の潔白についてメディアを通し公に説明するなどの処置をとった。後に、本件は訴訟事件一覧表中の案件誤認による憶測に過ぎなかったことがわかり、「マ」護民官の身の潔白は証明された。

●マック・マハラジ大統領報道官任命

7日、マック・マハラジ新大統領報道官の就任が発表された。マハラジ氏は反アパルトヘイト運動に関わり、マンデラ元大統領にも近いと言われていた人物で、マンデラ政権下では運輸大臣も務めた。現在はジンバブエ問題調停チームの一員でもある。報道官の他、G20のインフラ作業部会の特使も務めることが決定された。

●マドンセラ護民官、建物不正リースの報告書提出

14日、マドンセラ護民官はプレトリアとダーバンの2件の警察庁建物不正リースの件で、ヌカビンデ公共事業大臣とツェレ警察長官が不正に関与したとする報告書を公表した。これを受け、マハラジ大統領報道官は、右報告書を大統領の司法チームが精査した上で、ズマ大統領が然るべく対応するとの考えを表明した。ツェレ長官に関しては、解任があった場合には、駐日大使転出がオファーされているとの憶測記事が出回ったが、マハラジ大統領報道官から「右は誤った情報で根拠のないもの」との声明が発表された。

●ANC青年同盟総裁に入札に関する汚職容疑

24日、マレマANC青年同盟総裁が、政府の入札に対する便宜供与の見返りとして様々なビジネスマンから金銭を受け取ったという記事が当地紙に掲載された。これを受け、人

権団体アフリフォーラムはマレマ総裁を提訴し、調査が進められる運びとなった。マレマ総裁及び青年同盟側は申し立て内容を全面否定している。

●内閣再編の憶測

12日以降、ANC・3者同盟政策集中討議、内閣政策集中討議を控え、内閣再編の憶測が浮上した。病気で休養中のシセカ伝統業務・協調統治大臣、鉱山国有化に反対するシャバング鉱物資源大臣等が更迭・再編の対象となり、シセカ大臣の更迭によりムテトワ警察大臣がシセカ大臣の役職を引継ぎ、ムテトワ大臣に代わってムバルラ・スポーツ娯楽大臣が警察大臣に就任するという憶測が飛びかった。当再編は、総裁選を来年に控えずマ大統領の支持層を固めるためとの見方もある中、再編断行の有無が注目される。

●司法長官の任期延長違法判決

ズマ大統領自らが判事報酬及び雇用法の条項8を適用してサンディレ・ヌコボ司法長官の任期を5年延長しようとしたことについて、先月、南ア司法連合等の市民団体より同方針は違法であるとの申し立てがあり、今月18日、憲法裁判所で本件の合法性を問う公聴会が開かれた。これを受け、7日ヌコボ長官は自らの任期延長のオファーを辞去すると発表、29日には憲法裁判所がヌコボ長官の任期延長は違法であるとの判決を下した。内閣は、6日判事報酬及び雇用法の条項8の改正を承認したが、今後議会でも法改正の承認が行われる予定。

2. 外政関連

●リビア情勢に関する南ア動向

3-4日、ズマ大統領はロシアのソチを訪問し、AUアドホック・ハイレベル委員会のメンバーとして、7月3日に開催されるリビアに関する国際コンタクト・グループ会合に参加した。4日には、ズマ大統領は、メドヴェージェフ大統領及びラスムッセンNATO事務総長とそれぞれ会談し、AUの停戦提案が実施されるよう空爆停止を求めたが、「ラ」事務総長は、NATOによる軍事行動を継続すると発表した。

18日には、キャメロン英首相が南アを訪問し、ズマ大統領とリビア情勢等につき協議した。会談後の記者会見において、ズマ大統領は軍事介入を否定し政治的解決を訴える一方、キャメロン首相はカダフィ・リビア指導者の排除がスタートラインであるとの認識を示し、双方間の意見の相違を窺わせた。

●ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣の訪独と気候対話の共催

3-4日、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣はベルリンを訪問し、ノベルト・レトゲン独連邦環境大臣とともに、「ペータースベルク気候対話II」を共催した。同対話は、COP17に向け野心的かつ現実的な枠組を計画するための非公式な閣僚会合であり、35カ国の代表が参加した。

●ダーバンでの第123回IOC総会開催

5-6日、ダーバンにて第123回国際オリンピック委員会（IOC）総会が開催され、5日にはズマ大統領がスピーチを行った。6日の投票で、2018年冬季オリンピックの開催地が韓国の平昌（ピョンチャン）に決定した。

●南スーダン共和国建国式典

8－9日、ズマ大統領は南スーダン共和国建国式典に出席するため南北スーダンを訪問した。同訪問にはヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣、チャバネ大統領府担当大臣、ヌカクラ・スーダン問題担当大統領特使等が同行した。

●キクウェテ・タンザニア大統領南ア訪問

19－20日、キクウェテ・タンザニア大統領が南アを訪問し、ズマ大統領と両国関係強化につき協議した。訪問中、二国間委員会（BNC）の設立等に関する幾つかの合意に署名がなされた。19日には両国ビジネス・フォーラムが並行して開催された。

●アントニオ・ブラジル外相南ア訪問

23日、アントニオ・ブラジル外相が南アを訪問し、ヌコアナ＝マシャバネ国際関係・協力大臣と会談し、国連安保理やIBSA・BRICSでの協力、気候変動、シリア情勢等につき協議した。

3. 経済

<指標>

●南アの公式発表によると、失業率は第1四半期の25%から第2四半期には25.7%に上昇し、過去7年間で最も高くなった。南ア統計局は、同失業率の上昇は、積極的に職探しをする人口が増加していることが主な要因であるとしている。また、アナリストは、ストライキ及び2桁台の賃金上昇は雇用創出を抑制すると指摘した。

●南ア統計局によると、南アの製造業生産は、4月の0.2%に続き、5月に0.6%の上昇にとどまり、当初の見込みを大幅に下回った。アナリストは、これらの指標はグローバル経済が減速していること、及び国内需要が弱いことの証拠である、と述べた。南アの購買担当者指標（PMI）は、6月に3ヶ月間連続で落ち込んだ。スタンダード銀行のエコノミストは、南ア準備銀行は今年いっぱい利率を据え置くための根拠としてこれらのPMIデータを用いるであろうと指摘している。

●南ア自動車製造業者協会（NAAMSA）によると、自動車販売台数は、6月には対前月比8%増加した。また自家用車は、対前年同月比で17.3%増加している。しかしこれは、フォルクスワーゲンのポロが市場を牽引しているためであり、対前年比の売り上げ成長は実質的にあらゆる車種の部門で一貫して減少しているとNAAMSAの理事は述べている。アナリストは、南アにおける閉鎖的な経済が、新たな自動車販売の成長を減速させている、と指摘した。

●南ア統計局によると、小売り部門の売り上げは、4月に10%増加した後、5月には4.7%減少した。4月の数値は、祝日が多かったこと、冬の寒さ到来が早かったことに起因する。小売業と製造業は、経済生産の27%を占めており、同部門のこのような業績は第2四半期の全体的な経済成長が減速する見込みであることを示唆する。

●南ア準備銀行の四半期報告によると、家計支出は、前年第4四半期の4.8%から第1四半期には5.2%に上昇し、粗固定資本形成は、前年第4四半期の1.5%増から第1四半期に3.1%に上昇した。同報告では、今年の物価上昇予測は平均5.3%、来年には5.8%に上昇した後、同水準が維持されるという見通しが示されている。

●南ア準備銀行によると、南アの経常収支赤字は、前年第4四半期の対GDP比1%から、第1四半期には同3.1%に拡大した。商取引専門家は、国内需要の拡大による輸入増加が見られる一方で、弱い国際需要に対して輸出は横ばいになると見ている。貿易赤字8780億ランドは、外国投資家による南アでの運用資産売却にもかかわらず、資本流入により容易に財源が確保された。

＜経済関連ニュース＞

●タタ自動車は、中型及び大型の商用車組み立て工場をプレトリア近郊のロスリンに建設するため、1億1千万ランドを投資した。これまで、タタ自動車の中型・大型の商用車は、完成車を輸入してきたが、今後は南ア国内で組み立てられる。同工場は、タタ自動車初のインド国外における主要な操業地となる。

●7月に行われた金属関連労働者のストライキは、脅迫や資産破壊が報告されるなど、南アで最も暴力的なストライキの一つとなった。従業員、請負業者、納入業者を保護するため、ダーバン労働裁判所に暴力的なストライキの禁止を求める企業もでた。南ア金属関連労働組合(Numsa)は13%の賃上げを要求、南ア鉄鋼エンジニアリング産業連合(Seifsa)は、10-13%の賃上げを要求したが、雇用主協会CEOは組合の要求は非現実的であると主張した。

●スタンダード銀行は、今後10年間のアフリカにおける中国の影響は大きく、アフリカ大陸との貿易投資最大のパートナーとして西欧諸国の地位に取って代わるであろうと予測した。在北京のスティーブンズ同行エコノミストは、中国はとりわけ建設及びインフラ部門で重要な役割を担うであろうと見ている。スタンダード銀行は、資金提供を考えており、インフラ支出により利益を得る見通し。スティーブンズ氏は、アフリカのインフラ改善及び維持には、年間1000億ドルが必要と見ている。中国の資金提供は、2007年以来アフリカの新設インフラの2/3にのぼる。

●7月、サントンで行われた3日間にわたる貿易展示会で締結された取決めににより、韓国企業は、数十億ランド規模の製造業工場を南アに設立することを計画している。鉄鋼メーカー・ポスコ、電気機器のLG、ハンコックタイヤ、韓国貿易保険は、ハウテン州に基盤を置く。重金属製造業HSGは、リージョナル本社の設置場所として、リチャーズベイを選出した。韓国貿易投資促進機構のキム・アフリカ担当事務局長は、アフリカは高収益の機会を提供する地域と韓国企業が認識していると述べた。

●南アの製造業部門では、国際的な経済不況のため28万人を上回る雇用の消失がみられ、これらの回復は見られていない。エコノミストは、ランド高による輸出への影響、国際経済の不安定な状況を含む多くの課題に直面しており、南アの製造業部門の物品及びサービス需要に影響を及ぼしていると述べた。11部類ある南ア製造業部門のうち、10部類は4月に縮小した。成長が見られた唯一の部類は、ラジオ、テレビ、通信関連部品であった。

4. 広報・文化

●レスキュー・サウス・アフリカに対する大使表彰及び桜の木の贈呈

20日、東日本大震災における救助活動で顕著な活躍を見せたレスキュー・サウス・

アフリカ（RSA）に対し、小澤大使から表彰状が贈呈されるとともに、両国の友情の証として、桜の木の植樹が行われた。

当日はRSAの事務所があるヨハネスブルグ郊外で、日本での活動に従事した30名を超えるRSA隊員、帰国中のグローバル駐日南アフリカ大使やシェールRSA代表のほか、多くの在留邦人も出席し、盛大に式典が執り行われた。

RSAは3月18日からの10日間、宮城県石巻市等で救援活動を行っている。

●第32回ダーバン国際映画祭

21日から31日の11日間、ダーバンにおいて第32回ダーバン国際映画祭が開催された。本年は日本から北野武監督のアウトレイジ、深田晃司監督の歓待(HOSPITALITE)の2作品が各2回上映された。

同映画祭は毎年約2万人以上の観客動員を誇り、約40カ国から200本を超える映画が上映され、南アフリカのみならず南部アフリカ諸国の映画関係者からも関心を集めている。

●第25期JETプログラム参加者出発前オリエンテーション及び歓送レセプション

22日（金）、23日（土）に日本に向けて出発する第25期JETプログラム参加者に対する出発前オリエンテーションが当館多目的ホールで実施され、出発を翌日に控えたJET参加者に対する最後の説明と質疑応答が行われた。

引き続き行われた歓送レセプションでは、今期のJETプログラム参加者が一同に介する数少ない機会であることから、JET参加者間及び元JETとの間で活発な情報交換が行われた。今期のJETプログラム参加者は3月に起きた東日本大震災及びそれに伴う津波、その後に発生した放射能汚染の影響を思慮した上で訪日を決めており、両国の友好関係発展に大きく寄与することが期待されている。

5. 警備・治安

●ショッピング時の注意事項

今月、ショッピングモールから強盗団車両に尾行され、被害に遭うケースが目立っている。犯人は、被害者が自宅ゲート前においてゲートが開くのを待つ間に、後方を犯人車両でブロックした上で銃を突きつける手口を用いた。強盗団は、いわゆる安物の車両だけでなく、BMWやベンツ等の盗んだ高級車も使用し、被害者に安心感をもたせる例も散見されている。ナンバープレートも随時付け替えているため、警察もナンバーのみでは見分けることが難しくなっている。

南ア国内において、日本人や中国人は裕福と見られがちである。過去の例から、犯人らは獲物（被害者）を店内にいる時から物色をしていることが分かっている。以下の諸点に注意し警戒を怠らないことが肝要である。

- ・ 出発から3分間、目的地到着までの3分間を重点的に後方確認する。
- ・ ルートを時々変更する。
- ・ 不審な点があれば、家に入らず、ガソリンスタンド、ショッピング・センター、警察施設等の人目につきやすく比較的安全な場所に入る。
- ・ 不審な点があれば極力交通量の多い道路を走る。
- ・ 複数の車輛（バイク含む）が連携して尾行してくることもあるので、特に後方に車両がある場合は注意を怠らない。（後方2台目、3台目より尾行する例も散見される。）
- ・ 夜間であれば無灯火で追跡してくることに注意する。

●ブルーライト・ギャングについて

ブルーライト・ギャングとは偽警察官（時には偽パトカーも使用）による犯罪（主に強盗や偽罰金徴収する）のことで、日本ではあまり例のない南ア特有の犯行形態である。これに関する新聞記事は以下のとおり。

・7月13日、ブルーライト・ギャング（偽警察）3名が、プレトリア市内のコルビン地区において逮捕された。サニーサイド警察が、同地区を巡回中に不審なBMWを発見し、車内を調べたところ、無許可のけん銃、防弾チョッキ、パトランプ、懐中電灯等の警察備品が見つかった。

・7月14日、ブルーライト・ギャング4名がプレトリア市内で逮捕された。犯人の内1名は、元警察官だった。

・7月27日、ヨハネスブルグ市の南に位置するベリーニジンの民家に9人組のブルーライト・ギャングが車両約6台で侵入し、携帯電話、パソコンなどの貴重品を奪って逃走した。犯人のうち4名が逮捕されたが残り3人は依然逃走中である。犯人達はけん銃、自動小銃、警察官のベストを所持していた。

偽警察官による検問、停止命令、職務質問はなかなか防ぐ方法が無く、本物の警察官との見分け方も難しい。警察当局へ見分け方について問い合わせたところ、「本物の警察官はIDを所持しているはずなので、その呈示を求めるのがよいのでは」とのこと。これも完璧な唯一の見分ける手段とは言えないが、実際に空港において、この方法を試し、偽警察官が逃げた例もある。

いずれにしても、検問の際に窓を少し開け対応する、不用意に車両から降りない、日頃から交通ルールを遵守して停止を求められるような行動をしない等を励行し、あまりにも疑わしい場合には、10111番をして、本物の警察に電話をするのも一案である。

（了）